

■第131回 IR セミナー■

小型銘柄の時価総額増大モデルとは？

2015年4月23日開催

◆ 時価総額の増大モデル

時価総額をどう増やすかは、上場企業である限り、追い求めるテーマですね。時価総額が大きければ、資金調達がしやすくなり、投資ができ、収益につながります。あるいは、金融機関などが、紹介先を探す場合も、上場企業で、時価総額が大きいところの順に、信用がある、と思いがち？なので、紹介しやすく、提携話につながりやすくなります。

つまり、時価総額や株価の動きは、業績に跳ね返ってくるわけです。

小型の銘柄は、とにかく早く力をつけることですね。

小型株の時価総額増大への道は、ある程度、順番・法則・定石があります。

個人投資家への徹底した IR から、流動性を高める資本政策、次いで機関投資家に挑戦、そしてある程度時価総額が大きくなると、今度は浮動株数を調整し、株価が上がりやすくすることも、大事になるでしょう。

IR 担当者と財務担当者は、連携して、的確な資本政策を行うことが、時価総額増大には必要です。

業績だけが時価総額をつくるわけではない、ということを頭にいれておきましょう。

◆ 直近の市場日程とレーティング動向

連休前の新規上場銘柄がラッシュです。

(株)gumi の影響がまだあるかどうかですね。頑張れ、野村証券！

28日の3銘柄同時（ジグソー、Gunosy、リンクバル）が連休前駆け込みでどうなりますかね。

◆ 直近の大量保有報告書

4月に入って、沢山出てきました。

とてもここだけではコメントできず・・・